

## 校長先生の日記③⑤

### いよいよ雪景色。クリスマス寒波が襲来！

町民のみなさまの読み通り、クリスマス寒波がやってきて、雪が降りました。それでも例年に比べれば少ないとのことで、やはり今年は雪が少ないのかもしれませんが。

木々の枝に雪が張り付き、森や林は真っ白になりました。山全体が墨絵で描かれたような幻想的な風景になり、それもまた美しく感動的な景色です。久しぶりに見た「雪景色」に一人はしゃいでしまう校長です。

いよいよクリスマス。がんばった子どもたちのところにサンタさんが来てくれることを祈ります。



#### いよいよ引き継ぎです

9年生から8年生の役員に生徒会が引き継がれました。それぞれの委員会毎集まって、仕事の内容を説明していく9年生。先輩の話に精一杯耳を傾ける8年生。きっと「自分たちにできるかな？」と不安もあると思いますが、8年生なら大丈夫！頑張ってくれるでしょう！



#### 冬休みの準備が進んでいます

教室を回っていくと、所々のクラスで書き初めの練習をしていました。いつもの半紙より大きい半紙に文字を書きます。どのくらいの大きさで、どの辺に書いたらいいのかわかりません。お手本と見比べながら練習していました。日本の文化の継承です。ご協力をお願いします。またある教室では「かるた大会」をしていました。先生が読み札を読むと、身を乗り出して札を探します。「あった！」と嬉しそうに札を取っていました。休み中の遊びとして、昔遊びもいいですね。そして高等部の教室では、厚い「宿題」が手渡され、計画を立てていました。「こんなにたくさん！？」悲痛な叫びが聞こえてきました。「今日からやろう！」そうそう、そんな前向きな気持ちで取り組んでもらえると、出した甲斐があります。頑張ってください！冬休みに向かって準備が着々と進んでいます。楽しみです。



#### 思い出を作品に

6年生はオルゴールを、9年生は時計を制作しています。3月には6年生は中学生となり9年生は卒業を迎えます。6年間の思い出を9年間の思い出を作品に込めて制作しています。デザインは思い思いですが、自分の今を精一杯表現しています。オルゴールは今でも

家に残っています。きっと蓋を開けると一瞬で小学校の頃にタイムスリップしてしまうような一生の宝物になり、時計は新しい時を刻みながら、見る度に信濃小中の時間もよみがえるこれまた宝物なりそうです。3学期は47日とあっという間です。今からいろいろな準備が進んでいきます。



## 4年生が米作りの締めくくり、収穫祭を行いました！

4年生が5月から取り組んできた米作りの締めくくり、「収穫祭」を行いました。4年生はこのお米作りを通して、お餅をのせる自分のお皿作り、残ったわらでしめ縄づくりとたくさんの地域のみなさんと活動してきました。収穫祭にはお世話になったみなさん全員をご招待して、盛大に行われました。まずは、収穫した餅米（一等米）を使って餅をつき、豚汁やフルーツポンチなどと一緒にいただきました。その後は米作りを振り返りお世話になったみなさんに感謝状を渡したり、お礼のダンス「よさこいソーラン」や歌を披露したりしました。保護者のみなさんにも大勢ご参加いただきました。コロナでできなかった収穫祭がやっと戻ってきました。やっぱりここまでやって締めくくりだなと見ていて思いました。自分たちで発表原稿やスライドを作って準備し、精一杯感謝の気持ちを伝え、大地の恵みをいただき、4年生の活躍と成長が本当に嬉しかったです。4年生は、4月から高等部の仲間入りです。初等部最終学年として、思う存分体験し、学んだ成果がしっかり現れた収穫祭でした。



## かわいいクリスマスコンサート

1年生から4年生のみなさんがクリスマスに合わせてクリスマスコンサートを開催してくれました。音楽の時間にハンドベルやリコーダー、鍵盤ハーモニカでクリスマスソングを練習し、休み時間に発表してくれました。時間になると交流広場には大勢のお客さんが集まり、発表を見守りました。25日に4年生が「きよしこの夜」を演奏して締めくくられました。たくさんのお客さんに聞いてもらえるとあって、みんな張り切って練習したとのこと。クリスマスがやってくる喜びをかわいいコンサートとともに味わうことができました！みんなありがとう！メリークリスマス！



## 4年生と一緒に紙すき体験に行ってきました

4年生は本当に忙しいです。自分たちの初等部終了証書の紙を自分で「すき」に行きました。せっかくなので、一緒に体験させてもらいに行きました。木島平の紙すき体験の家に行って、証書の紙とはがきをすいてきました。はがきには思い思いに模様をつけることができ、感性の赴くままに自由な発想で制作していました。証書は乾かし、そのまま印刷所に送られ、文書が書かれて戻ってきます。私が一人一人の名前を書きますが、ふと自分の作った紙は1枚しかないのか・・・失敗できない・・・とプレッシャーがのしかかってきました。紙すき楽しいと言ってる場合ではなかったと重責を確認して帰ってきました。